



純糖率、可製糖率が高い

農林14号

Ni14 (旧系統名KY88T-520)

【栽培適地】鹿児島県熊毛地域(種子島)

農林14号(Ni14)は、2000年(平成12年)に命名登録、同年、鹿児島県の奨励品種に採用されました。高糖性を特徴とする品種です。



左:剥葉前の茎
右:剥葉し、日光にさらされた茎



左:剥葉前の芽子
右:剥葉し、日光にさらされた芽子



立毛状態

来歴組合せ KF78-81の自然受粉

Ni14は、九州沖縄農業研究センターさとうきび育種研究室が育成した品種です。1986年(昭和61年)に沖縄県石垣島においてKF78-81を母本とする自然交雑種子を得て、実生を養成しました。以後、特に高糖性に注目して選抜を重ねて育成しました。

重要特性

- ・NCo310やNiF8よりも蔗汁糖度、純糖率および可製糖率が高い。
- ・茎が柔らかく刈り倒し易いため、収穫作業がし易い。

■育成地(種子島)における春植え1月収穫の特性

	原料茎数(本/a)	一茎重(g)	原料茎重(kg/a)	ブリックス(%)	繊維分(%)	甘蔗糖度(%)	可製糖量(kg/a)
Ni14	897[89]	930[106]	788[98]	18.4[104]	11.8[105]	13.0[112]	104[104]
NCo310	1355	637	799	17.3	12.4	10.5	92
NiF8	1010	878	807	17.7	11.2	11.6	100

※[]内はNiF8を100とした場合の比率。

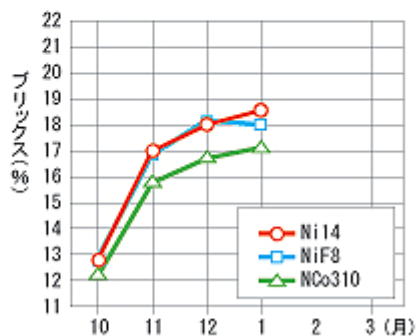
■病害抵抗性

	黒穂病	モザイク病	葉焼病	さび病	葉片赤斑病
Ni14	極弱	強	やや強	強	強
NCo310	弱	弱	中	弱	弱
NiF8	強	強	強	強	強

■その他、主要な生態的特性

	発芽性	分けつ性	萌芽性	出穂性	風折抵抗性	脱葉性
Ni14	良	弱	やや良	無	極強	中
NCo310	中	中	中	多	強	難
NiF8	良	中	良	多	強	易

■Ni14のブリックスの上昇(育成地における春植え)



※ Ni14のブリックスはNCo310, NiF8よりも高い。

栽培上の注意



- 脱葉しやすさはNiF8にやや劣るが、茎が柔らかく刈り倒しやすい。
- 3月以降も側枝の発生がほとんどない。
- 風折抵抗性はNiF8より強い。
- 黒穂病に弱いため、黒穂病が発生した地域での栽培は控えましょう。

Ni14の形態的特性

葉長はNCo310と比較して長い。茎はNCo310よりも太い。

■葉身・葉鞘関連形質

	草型	葉身長	葉幅	葉色	葉鞘長	葉耳	毛群	ろう物質	花青素(葉鞘)
Ni14	中葉	中	やや広	中	やや長	上昇下降	微	多	紫
NCo 310	中葉	中	中	中	中	上昇下降	無	中	無
NiF8	立葉	中	広	濃	中	三角形	微	中	極淡紫

■茎関連形質

	莖葉の形態	茎色		茎長	茎径	亀裂	ろう物質	芽子の形	芽翼	芽子突出度	芽溝
		基本色	複合色								
Ni14	円筒	黄緑	紫	長	中	無	多	円	やや広	やや凸	無
NCo310	円筒	黄緑	褐	中	細	小	多	円	やや広	やや凸	無
NiF8	円筒	黄緑	淡紫	やや長	中	無	極多	円	中	凸	無

他の品種と見分けるときのポイント



- 葉鞘の花青素が他品種と比べて強く、紫色を呈します。
- 日光にさらされた茎は紫色となります。